



從四位勲四等鹿島孝三勲章

加授、件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十二年六月十六日

内閣總理大臣公爵近衛文磨



内

閣



賞勳局吉第三一九號 丙閣 陸軍部二四 号

昭和十二年六月十一日 内閣書記官長

内閣總理大臣 及

賞勳局總裁



内閣書記官 佐藤 佐藤

昭和拾貳年八月四日 勳記傳達  
昭和拾貳年六月廿七日 勳章傳達(抄本送書等)  
昭和十二年六月十七日  
昭和十二年六月十七日  
昭和十二年六月十七日

從四位勳四等鹿島孝三勳章  
加授ノ件別紙ノ通議定候條  
御沙汰案ヲ具シ此段允裁ヲ  
仰

追テ本件ハ秘密ヲ要スルヲ以テ  
御沙汰文ノ官報登載ヲ見合  
セ度此段副申ス

賞勳局

(日本書)

御沙汰案

從四位勳四等鹿島孝三

銳意研鑽遂ニ化學兵器ヲ完

成スルニ至リタル功績顯著ナリトス

依テ旭日小綬章ヲ授ケ賜フ

内閣

昭和十二年六月十日

賞勳局總裁

書記官

議定官

否

可



勳章加授議案

從四位勳四等鹿島孝三

右ハ大正十年五月陸軍技師ニ任セラレ陸軍科學研究所附トナリ後

賞勳局

チ大正十三年三月歐米列國化學兵器ノ調査、為出張ヲ命セラレ米國ニ在リテ砒素系化學兵器ヲ研究シ更ニ歐洲ニ渡リ幾多ノ困難ヲ排シテ列國化學兵器ノ研究機關工場施設等ヲ審ニ調査シ大正十四年十月歸朝陸軍科學研究所第三部化學兵器創製ノ班長トナリ豊富ナル經驗ヲ實地ニ應用シ昭和十一年九月退官ニ至ル迄終始

一貫熱心ニ部下ヲ指導スルト共ニ  
自ラ研究ニ専念シ多數ノ化學兵  
器竝之ニ關連スル研究ヲ着々完成  
シ以テ列強ニ遜色ナキ化學兵器  
ト其ノ製造技術トヲ發達向上セ  
シメ國家ノ爲貢獻セル功績顯著  
ナリト認ム仍テ陸軍大臣ノ上奏ヲ  
勘查シ加授ノ勲章ヲ擬議スル左  
ノ如シ

授旭日小綬章

賞勳局

功績書

元陸軍技師從四位勳四等 鹿島孝三

一石者大正十年五月陸軍技師ニ任シ陸軍科學研究所附トナリ「三口  
ナフタリン」爆藥及大藥安定劑ノ研究ヲ擔當シ兼テ化學兵器ニ關  
スル調査研究ニ從事スルコト約三年大正十三年三月歐米列國化學  
兵器ノ研究調査ノ爲出張ヲ命セラレ先ツ一年以上ニ亘リ米國ニ在  
リテ主トシテ砒素系化學兵器ヲ研究シ更ニ數ヶ月ニ亘リ歐洲ニ渡  
リ幾多ノ困難ヲ排シテ列國化學兵器ノ研究機關工場施設等ヲ  
審ニ調査シ大正十四年十月歸朝セリ

時恰モ陸軍科學研究所ノ編制改正セラレ新ニ化學兵器ノ研  
究ヲ開始スルコトナリシヲ以テ新設第三部、化學兵器創製ノ  
班長トナリ其ノ豐富ナル經驗ヲ實地ニ應用シ爾來今日ニ至ル迄  
約十六年間終始一貫其ノ高潔ナル人格ト卓越セル識見トニ依

リ熱心部下研究員ヲ指導スルト共ニ自ラ研究ニ專念シテ範ヲ  
重レ國軍ノ化學兵器並之ニ關連スル研究ヲ着々完成シ以テ  
現時ノ如ク列強ニ遜色ナキ程度ニ迄化學兵器ノ研究ト其製造  
技術トヲ發達向上セシメ有事ニ際シテハ直ニ之ヲ使用スルヲ得國  
防上遺憾ナキニ到ラシメタルハ多年同官ノ努力與ツテ大ナルモノ  
アリ其國家及國軍ニ盡セシ功績ハ特ニ顯著ナルモノト認ム

ニ鹿島技師自ラ研究ヲ擔任シ其完成セシ主要研究事項尤ノ如シ

「イペリット」原料「エチレン」ノ創製

佛法「イペリット」ノ創製

獨法「イペリット」ノ創製

「チクロロエタン」(發煙劑)ノ創製

「テトラクロロエタン」(發煙劑)ノ創製

「ヘキサクロロエタン」(發煙劑)ノ創製

「エチレングリコール」(飛行機用冷却劑)ノ創製

「アチルチクロルアルシン」(不凍性脂肪族砒素系毒物)ノ創製  
毒性ト化學構造トノ關係理論ノ研究

三其ノ他詮衡上参考トナルヘキ事項

本人ハ大正六年七月京都帝國大學理學部化學科卒業ニ  
シテ直ニ同大學ノ講師トナリ併ヒテ京都藥學專門學校講  
師ヲ囑託セラレ大正十年五月陸軍技師ニ任シ當所附トナリ  
タルモノニシテ化學ニ關スル蘊蓄深ク且經驗ニ富ミ昭和五年  
七月十九日ニハ理學博士ノ學位ヲ授ケラル又學術振興會委  
員トナリ陸軍代表トシテ一般學術ニモ貢獻セシ所甚大ニシテ  
優秀ナル化學者ナリ

陸

軍

履 歷 書

元陸軍技師從四位勳四等 鹿島孝三

明治三十三年四月二十日

本 籍 東京市下谷區練堀町五十五番地

現住所 東京市豊島區長崎東町三丁目三七一番地

一 大正十年五月十二日 任陸軍技師同日陸軍科學研究所附

一 同 年五月十二日 敘高等官七等

一 同 年五月十二日 九級俸下賜

一 同 年六月三十日 敘從七位

一 同 十一年六月二十四日 敘高等官六等

一 同 年六月二十四日 八級俸下賜

一 同 年七月十日 敘正七位

一 同 十二年六月三十日 七級俸下賜

陸 軍

一 同 十三年三月十八日 米國へ出張ヲ命ス同日横濱港出發

一 同 年十月十三日 六級俸下賜

一 同 年十一月二十日 敘高等官五等

一 同 年十二月二十七日 敘從六位

一 同 十四年五月一日 補陸軍科學研究所々員

一 同 年十月十八日 横濱港歸着

一 同 十五年十二月二十二日 五級俸下賜

一 昭和二年六月二十日 敘高等官四等

一 同 年七月十五日 敘正六位

一 同 三年十月十六日 大禮記念章授與

一 同 年十二月二十日 四級俸下賜

一 同 四年九月五日 昭和三十二年支那事變勤勞ニ依リ金百六十五圓ヲ賜フ

一 同 五年六月二十日 敘高等官三等



一同 年七月十五日 敘從五位

一同 年七月十九日 大正九年勅令第百號學位令ニ依リ理學博士ノ學位ヲ授ク(京都帝國大學)

一同六年五月二十七日 勅令第九十九號ニ依リ六月分ヨリ年俸參千五十圓

一同 年十二月二十日 三級俸下賜

一同八年五月十日 敘勲六等授瑞寶章

一同自昭和七年二月二日至同八年六月三十日 陸軍科學研究所ニ在リテ滿洲事變勤務ニ從事ス

一同昭和九年四月二十九日 昭和六年乃至九年事變ニ於ケル功ニ依リ敘勲四

等授瑞寶章及金八百圓ヲ授ケ賜フ

一同 年四月二十九日 昭和六年乃至九年事變從軍記章授與

一同十年八月一日 敘正五位

一同十一年六月二十日 敘高等官二等

一同 年六月二十日 四級俸下賜

陸 軍

一同十一年九月二十五日 依願免本官

一同 年十月二十日 敘從四位(特旨)

授旭日小綬章 元陸軍技師從四位勲四等鹿島孝三  
右者別紙功績書ノ通其ノ功績顯著ニシテ國  
軍ノ爲貢獻スル處頗ル大ナルモノアリト認メ  
ラルルニ付特別ノ御思召ヲ以テ頭書ノ通加授  
ノ御沙汰ヲ賜リ度  
謹テ奏ス

昭和十二年六月四日

陸軍大臣 杉山

元



陸軍

裏面白紙

勲第一二九二號

叙勲ノ件進達

昭和十二年六月四日

陸軍大臣 杉山

元



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿  
一元陸軍技師鹿島孝三叙勲ノ件  
右進達ス

内閣更迭ニ依リ賞勲ヲ直接書換ヘセシメタル事



陸軍

勲第

叙勲ノ件

昭和十二年六月四日

陸軍大臣 杉山

内閣總理大臣 公爵 近衛文麿 殿

一元陸軍技師 鹿島孝三 叙勲ノ件

右進達ス



裏面白紙

陸軍